

概 況

「子供の時代に子供らしい体験を重ねること、四季折々の変化を体で感じながら心を耕していくことは、人間が成長していく上で欠かせない貴重な財産であるに違いない」

この財団設立理念の基、定款第4条第1項1号に掲げる公益目的事業は、本年度も、北海道の豊かな自然と文化を生かし“自然界の命のつながり”をテーマとした「平成27年度子ども自然体験塾」を、子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金交付を受け、また、都市河川の自然環境を生かした自然体験活動を地域住民と共に実施する「出前子ども自然体験活動」を札幌市の「平成27年度まちなか生き物活動」の委託事業として実施しました。どのプログラムも非常に好評で、特に「子ども自然体験塾」は、計画人員に倍する応募がありました。しかしながら、開始してから10年が経過し、時代の変化と共に、変革の必要性も感じられるようになりました。

その他普及に係る情報発信活動としての、青山慎一先生の蝶・甲虫類の個人コレクション10万頭を当財団ホームページにて公開する「青山慎一先生の子ども世界の昆虫館」は開館してから2年が経過し、公開標本箱数も300箱増え合計444箱となり、公開予定箱数の約4割に達しました。その上、青山慎一先生が館長に就任していただきました。

更に、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP = Web Archiving Project）に採用され、当財団のWEB情報が長期保存・公開が可能となりました。長期保存とは、そこに記録された内容を百年単位、千年単位の長期にわたって利用できる状態で保存することです。

札幌市委託事業の受託やWARPの採用については、当財団の活動が高く評価されたことにほかなりません。

現在保有している限られた特定資産（自然体験学習事業資産）を有効かつ効率的に活用し、かけがえのない自然を子ども達と共に守り育てるための事業展開を今後共におし進めることとしたいと思います。

以上